

## 0 はじめに

令和3年度の学校評価は「働き方改革」の一環でオンライン（教職員はマイクロソフト Forms、保護者は安心メール）で行った。

数値の変化は、アンケートをとった教育活動やその周辺そのもののクオリティ等によるものはもちろん、構成員の変化（人事異動）、社会情勢の変化（コロナ禍等）の影響も受ける。教職員だけ、あるいは保護者だけに拠らず、それらを比較しながら分析する必要がある。

また、今回、容易に把握できるよう可能な限り、簡潔な表現を心がけた。

## 1 教育活動について

### (1) 読み取れること

- ① 教職員（全学部）では、8項目（19項目中）で昨年度比からマイナス。
- ② ①のうち「10 授業が分かりやすい」のみ0.2ポイント下落。同項は小中高いずれも下落。
- ③ 小学部の教職員では、17項目（18項目中）でマイナス。うち14項目で0.2ポイント以上のマイナス（No.7で最大0.4マイナス）。昨年度比プラスの項目なし。
- ④ 中学部の教職員では、9項目（18項目中）でマイナス、2項目でプラス（No.14で最大0.4プラス）。高等部の教職員では、3項目（19項目中）でマイナス、7項目でプラス。  
（※ただし、小学部の教育活動3.5は、中高より高い。）
- ⑤ ①に対し 保護者（全学部）では、昨年度比マイナスは2項目（19項目中）。
- ⑥ ③④に対し 保護者でも、昨年度比マイナスは小学部に多く、中高と進むにつれマイナスが減。
- ⑦ 保護者では、授業の様子に関する項目に特段の変化なし。教職員との関りで得られる情報や印象で変化あり。
- ⑧ 平均数値を見ると、中学部の教職員で「3.5」以上はNo.4のみ。4項目で「3」を下回り、うち特に「17 将来に向けた情報提供」では2.8。
- ⑨ 平均数値を見ると、小中学部の教職員とも「16 進路指導」は、高等部に比べて低い。

### (2) 推察できること（考察）

- ① 小学部の教職員で昨年度比マイナスが多いのは、構成員の変化によるものではないか。  
（※「7 専門性」の下げ幅に注目）
- ② 教職員（全学部）で、「個別の教育支援計画」や「研修」など全体の既定のものに対し、教職員個人の資質や活動の成果に依る項目は、低めに自己評価する傾向があるのではないか。

## 2 教育環境について

### (1) 読み取れること

- ① 教職員（全学部）では、1項目でマイナス、1項目で0.2ポイントのプラス（全3項目中）。
- ② ①でプラスの「21 教育環境の整備・活用」は、小学部の教職員で0.4マイナス、中学部の教職員で1.1のプラス。
- ③ 教育環境全体の平均数値では、中学部の教職員 3.40、高等部の教職員 3.20に対して、小学部の教職員は3.17。（※教育活動の順と異なる。）
- ④ 保護者（全学部）では、昨年度と変化なし。
- ⑤ 保護者の学部別では、小学部で「21 教育環境の整備・活用」がマイナス。中学部では同項プラス。
- ⑥ ⑤に対し 保護者で、小学部に昨年度と変化のなかったNo.20及び22が、中学部ではともに0.2マイナス。

## (2) 推察できること (考察)

- ① 小学部の教職員は、遊具等の利用が多く、その分で不便を感じることはあるのではないか。  
(※小学部に施設・設備の差異はほぼ無い。)
- ② 保護者は、昨年度に続いて校内に入る機会が少なく、教育環境へ関心が向かなかつたのではないか。
- ③ 中学部の保護者はA・B棟の経験が長く、施設老朽化等の現状をよく知っているためではないか。  
(※ただし、小学部保護者から自由記述あり。)

## 3 開かれた学校について

### (1) 読み取れること

- ① 教職員(全学部)では、全項目において昨年度比マイナス。
- ② 小学部の教職員では、全項目0.2以上のマイナス。うちNo23及び25では0.4マイナス。
- ③ 小学部の保護者では、特に「23 学校公開」で昨年度比0.3マイナス。
- ④ (③に対して) 高等部の保護者では、同項で0.1ながらプラス。
- ⑤ 開かれた学校全体の平均数値では、小学部の教職員で3.20。中高の教職員の3.10に比べて高い。

### (2) 推察できること (考察)

- ① 教職員、保護者とも新型コロナ禍2年目で、学校公開が十分にできていないことを反映か。
- ② 小学部の教職員では、鶴南の学校生活の浅い児童を前に、より詳細を伝えたい気持ちの表れが元来の数値の高さと今年度下落に反映しているのではないか。

## 4 今後の対応について

### (1) 教育活動について

小中高とも「授業の分かりやすさ」に課題があり、児童生徒個々の実態把握を今後とも丁寧に行い、学級担任の連携のもと教育課程の目標が達成できるような方策が授業で実践できるか、学部単位で注視する必要がある。

小学部で「専門性」の落ち込みが大きく、経験の少ない教職員への研修や実践の積み重ねが鍵となる。研究授業や夏休みの研修ウィーク等で、専門性を向上させる機会はあるが、このことが実践への自信につながっていないのではないか。研修後の同僚や管理職からのフォローを続けて行くことが必要と思われる。

学校全体として、保護者の「相談」に関する評価の下落があった。3.4と決して低い数値ではないが、保護者の来校・面談のほか日常的な電話等での保護者の要望に、寄り添う気持ちをもって聞けるかが課題であり、そのような研修機会も検討すべきだと考える。

### (2) 教育環境について

教室の不足等、すぐには改善できないことが多いが、老朽化した箇所特に安全確保上不安のあるところは、如何に教職員が気づき、事務室等へつなぐか。そして改善が図られた場合に、如何に保護者等へ伝えるかが課題である。日常的に学級通信等で教育活動についてお知らせしているが、施設・設備についても何らか保護者に伝えるすべを考える必要がある。

### (3) 開かれた学校について

コロナ禍の中で、校内の感染拡大を防止することが肝要であり、来校者制限をかけることは必要であった。HPは行事のたびに更新しているが、来校し実際に眼で見てもらうようにはいかない。今後とも、HPの適宜更新を心がけ、また更新のお知らせを学級通信や安心メール等でお伝えすることも考えなければならない。

さらに、2年連続してPTA総会が開けず、役員会や委員会活動がほとんどできなかった。コロナ禍でも充実したPTAの活動例を県内外から学び、小さいところから実施して会員全体に伝える努力が必要である。

令和3年度 長崎県立鶴南特別支援学校 学校評価 保護者アンケート結果

番号	評価内容	今年度	昨年度
1教育活動		3.50	
1	教育目標には児童生徒の実態に合った教育ニーズや願いが盛り込んである。	3.5	3.5
2	教育活動と目標は適切で、保護者に理解を得て実践している。	3.5	3.4
3	特色ある学年・部経営が行われ、児童生徒の成長のための取組を行っている。	3.5	3.4
4	保護者の希望や願いの声が届きやすく、学校運営に反映されている。	3.3	3.3
5	学校は、児童生徒が主体的に活動しようとする指導内容や学校行事を行っている	3.4	3.5
6	教職員は、自分の個性を発揮し、明るく活気のある学校作りを行っている。	3.5	3.5
7	教職員は、専門性をもって指導に取り組んでいる。	3.5	3.5
8	学校は、「個別の教育支援計画」について保護者と話し合いながら適切に取り組んでいる。	3.7	3.6
9	学校行事や授業などで、一人一人の生き生きとした活動の様子がみられる。	3.5	3.5
10	児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている。	3.5	3.4
11	学校は、基本的な生活習慣や挨拶、礼儀などが、身に付く指導をしている。	3.5	3.5
12	学校は、児童生徒の立場に立った声かけをしたり、相談を受けたりしている。	3.4	3.5
13	学校は、児童生徒の命を尊び、人権を尊重した取組を行っている。	3.5	3.5
14	学校は、児童生徒の事故防止に努め、適切な指導をしている。	3.5	3.4
15	学校と家庭が必要な情報を共有し連携した体制になっている。	3.4	3.4
16	学校は、児童生徒の成長に合わせ将来を見通した進路指導をしている。	3.4	3.4
17	学校は、児童生徒の将来の夢や願いの実現に向けた情報を提供している。	3.3	3.3
18	学校は、いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。	3.5	3.5
19	学校は、現場実習や進路開拓(一般就労・福祉就労等)を十分に行っている。(高のみ記入)	3.5	3.5
2教育環境		3.33	
20	学校は、安心・安全な施設・設備が整っている。	3.3	3.3
21	児童生徒の学習に必要な教育環境が整えてあり、活用されている。	3.4	3.4
22	学校は、校舎内外の施設が整備され、清潔な学校づくりに努めている。	3.3	3.3
3開かれた学校		3.30	
23	学校公開など、地域の人が来校しやすい機会や学校行事を設けている。	3.3	3.4
24	PTA活動に参加しやすいよう配慮している。	3.2	3.2
25	学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている。	3.3	3.3

小学部	中学部	高等部
3.7	3.5	3.4
3.6	3.5	3.4
3.6	3.5	3.4
3.4	3.3	3.3
3.5	3.3	3.4
3.5	3.5	3.4
3.4	3.5	3.5
3.8	3.6	3.6
3.6	3.3	3.5
3.6	3.5	3.5
3.6	3.5	3.5
3.4	3.4	3.5
3.4	3.5	3.6
3.5	3.4	3.5
3.4	3.4	3.5
3.4	3.3	3.4
3.3	3.2	3.3
3.4	3.5	3.6
		3.5
3.3	3.3	3.3
3.3	3.5	3.4
3.3	3.2	3.4
3.1	3.3	3.4
3.2	3.3	3.1
3.3	3.3	3.3

令和3年度 長崎県立鶴南特別支援学校 学校評価 教職員アンケート結果

番号	評価内容	今年度	昨年度	小学部	中学部	高等部	事務室
1教育活動		3.40					
1	教育目標には児童生徒の実態に合った教育ニーズや願いが盛り込んである。	3.4	3.5	3.5	3.3	3.4	4.0
2	教育活動と目標は適切で、保護者に理解を得て実践している。	3.4	3.3	3.4	3.2	3.4	4.0
3	特色ある学年・部経営が行われ、児童生徒の成長のための取組を行っている。	3.4	3.4	3.6	3.1	3.3	4.0
4	保護者の希望や願いの声が届きやすく、学校運営に反映されている。	3.2	3.2	3.3	3.0	3.2	3.0
5	児童生徒が主体的に活動しようとする指導内容や学校行事を行っている。	3.3	3.4	3.6	3.1	3.2	4.0
6	自分の個性を発揮し、明るく活気のある学校作りを行っている。	3.3	3.3	3.5	3.1	3.3	3.5
7	専門性をもって指導に取り組んでいる。	3.2	3.2	3.2	3.0	3.2	4.0
8	「個別の教育支援計画」について保護者と話し合いながら適切に取り組んでいる。	3.5	3.5	3.6	3.4	3.6	4.0
9	学校行事や授業などで、一人一人の生き生きとした活動の様子がみられる。	3.5	3.5	3.7	3.1	3.5	3.7
10	児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている。	3.2	3.4	3.5	2.9	3.2	4.0
11	基本的な生活習慣や挨拶、礼儀などが、身に付く指導をしている。	3.3	3.4	3.5	3.2	3.2	3.0
12	児童生徒の立場に立った声かけをしたり、相談を受けたりしている。	3.3	3.4	3.4	2.9	3.4	4.0
13	児童生徒の命を尊び、人権を尊重した取組を行っている。	3.5	3.4	3.5	3.2	3.6	3.5
14	児童生徒の事故防止のための研修や指導をしている。	3.5	3.4	3.5	3.5	3.4	3.5
15	学校と家庭が必要な情報を共有し連携した体制になっている。	3.3	3.4	3.4	3.1	3.3	4.0
16	児童生徒の成長に合わせ将来を見通した進路指導をしている。	3.3	3.3	3.2	2.9	3.5	4.0
17	児童生徒の将来の夢や願いの実現に向けた情報を提供している。	3.2	3.3	3.3	2.8	3.3	3.5
18	いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。	3.5	3.5	3.4	3.4	3.7	4.0
19	現場実習や進路開拓(一般就労・福祉就労等)を十分に行っている。(高のみ記入)	3.4	3.5			3.4	
2教育環境		3.23					
20	安心・安全な施設の整備に心がけている。	3.3	3.4	3.3	3.4	3.3	3.5
21	児童生徒の学習に必要な教育環境が整えてあり、活用されている。	3.3	3.1	3	3.8	3.2	3.3
22	校舎内外の施設が整備され、清潔な学校作りに努めている。	3.1	3.1	3.2	3.0	3.1	3.3
3開かれた学校		3.20					
23	学校公開など、地域の人が来校しやすい機会や学校行事を設けている。	3.2	3.3	3.3	3.1	3.1	3.0
24	PTA活動に参加しやすいよう配慮している。	3.0	3.1	3.1	2.9	3.0	4.0
25	学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている。	3.3	3.4	3.3	3.2	3.3	3.0